

## 小串・阿津・宮浦地区 人・農地プラン

市町村名	対象地区名(地区内集落名)	作成年月日	直近の更新年月日
岡山市	南区第三地域(小串・阿津・宮浦地区)	令和5年2月21日	—

### 1 対象地区の現状

①地区内の耕地面積	234.6ha
②アンケート調査等に回答した地区内の農地所有者又は耕作者の耕作面積の合計	122.8ha
③地区内における75才以上の農業者の耕作面積の合計	115.8ha
i うち後継者未定(回答有)の農業者の耕作面積の合計	38.0ha
ii うち後継者について不明(回答無)の農業者の耕作面積の合計	65.1ha
④地区内において今後中心経営体が引き受ける意向のある耕作面積の合計	23.7ha
(備考)	

### 2 対象地区の課題

<p>回答者のうち、65才以上の農業者は81%、75才以上の農業者は45%と、農業者の高齢化が進んでいる。また、回答者で65才以上のうち後継者がいない・未定の人数が84%で、その面積は回答者○の耕作面積全体の53%にのぼるなど、後継者不足が顕著となっている。耕作放棄地にも苦慮しており、農業者も地域全体も高齢化のため、耕作放棄対策に地域で取り組むには課題が多い。耕作放棄を未然に防止するため、関係機関とのさらなる連携が必要。</p>
<p>中心経営体が今後引き受ける意向のある耕作面積(23.7ha)は、回答者のあった65才以上で後継者なし・未定の農業者の耕作面積(65.1ha)を下回る。新たな受け手の掘り起こしが必要であり、周辺○地域からの入り作などの拡大も検討していく必要がある。</p> <p>また、新規就農者の研修事業終了後の耕作農地の確保が課題となっており、事前に耕作可能な農地に係る情報を共有することなど、新規就農者が定着しやすい環境を整備する必要がある。</p>
<p>農業を続けたいが、生産コストが高いことや、加齢により全ての作業をこなすことが難しいため、継続していくことに不安がある耕作者が一定数いる。地域で作業を引き受ける等して補う等の検討が必要○であるが、高齢化が顕著な地域であり、作業の受け手自体が減っている。農業を将来も継続できることが大切であり農業の魅力を感じられるような環境整備、特定農作物の産地化・ブランド化の支援や販路拡大等、中・小規模の農業従事者の収益が増える施策が必要。</p>
<p>○ 地理的要件から鳥獣被害(特にイノシシ)に悩まされている意見が多く、農家戸別に自衛対策をすることには限界があるため、集落・地域単位での鳥獣害対策の検討が必要。</p>
<p>○ 道幅が狭いため大型機械の搬入ができず、農作業の効率が悪い。道路幅の拡幅が課題。また、山間部では日照不足など耕作条件不利な箇所もある。</p>
<p>○ 相続をしたものの耕作地の場所も不明であるとの意見や、後継者も無く、借り手もいなければ放棄地とならざるを得ないといった意見も一定数あり、太陽光発電施設への転貸・転用なども検討する必要があるとの意見もあった。関連情報の不足が見受けられるため、農地の貸し・売り、転用等の情報提供を幅広く行うための方法を検討する必要がある。</p>

### 3 対象地区内における中心経営体への農地の集約化に関する方針

<p>地区内の中心経営体である認定農業者(個人・法人)は、後継者がいない・未定の農地利用を積極的に検討するなど、集約化の取り組みを推進していく。</p>
<p>地区内の農業者に対して、農業委員会の広報等や様々な機会を活用し、農地集約の目的等の周知・啓発や、農地貸付・売買・転用などの情報提供を図り、担い手となる中心経営体への農地集約の推進とあわせ、地域外からの入り作なども平行して検討していく。</p>
<p>中心経営体は、現在分散している農地の集約化について、中心経営体同士での話し合いや意見交換会等を行い、農地集約について効果的な手法等を協議・検討していく。</p>